



争いのない平和な未来へ

広島平和記念式典へ市内中学生の代表を派遣

問い合わせ 学校教育課教育総務室 ☎72・68802

記事ID

0045318

市では、平和学習事業の一環として、市内中学生の代表を広島平和記念式典へ派遣しています。この事業は、村上市の将来を担う若い人たちに戦争の悲惨さや平和の尊さを考え、理解を深めてもらうことを目的としています。

今年度は、市内7中学校の代表生徒7人が8月5日から3日間、広島市を訪問しました。5日には、平和記念公園にある「原爆の子の像」に、市内の中学生が思いを込めて折った千羽鶴を奉納。戦争で亡くなった子どもたちのご冥福を祈りました。その後、原爆ドームや5月のG7広島サミットで各国首脳が訪問した平和記念資料館を見学し、被爆の実相を知ると共に、争いのない平和な世界の大切さを考えることができました。

原爆投下から78年目を迎えた6日には、平和記念式典に参列。子ども代表の小学生による「平和への誓い」は、「平和な未来を自分たちがつくる」という力強い内容で感銘を受けました。また、今年度は、夜の「灯籠流し」に参加。平和への思いや原爆被害に遭われた方々の鎮魂を祈る言葉を書き込んだ灯籠を原爆ドーム前から元安川に流しました。

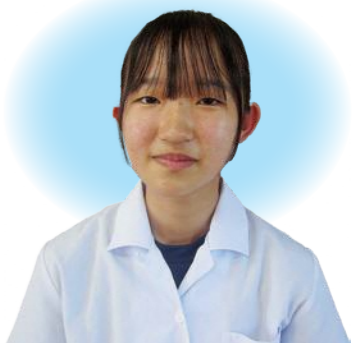


①原爆ドームを背に撮影
②原爆の子の像を見学
③元安川で灯籠流しを体験



「広島派遣で感じた思い」

村上第一中学校3年 小田部花さん



「広島が伝えてくれたこと」

村上東中学校3年 鈴木陽琉さん

実際の原爆ドームや資料館は、教科書やメディアで見る何倍も、過去に起こったことを鮮明に記憶していました。

原爆ドームのむき出しの鉄骨や壁の黒ずみ、建物の外に散らばったがれきなどは、戦後78年たった今でも原子爆弾の恐ろしさを物語っています。

平和記念資料館では、被爆者の悲鳴や苦しみを感じただけでなく、被爆後の「生きようとする力」、そして「未来にこの悲劇を繰り返さない決意」に胸を打たれました。自分が感じた平和への想いをこれからの人生で生かしていきたいです。

広島に行くことは2回目でしたが、多くのことを学ぶことができました。平和記念式典に参加したり、平和記念資料館を見学して、戦争や原爆がもたらした被害が、自分に起こったことのように鮮明に伝わってきました。こんなことが、実際に過去に起こったことなのだ、信じられないほどの衝撃を受けました。

今、私が幸せに暮らしていることは当たり前ではないと、この3日間ですごく体感しました。一日一日を大切に過ごさなければいけないのだと強く感じました。



「仲間と学んだ広島」

岩船中学校3年 鈴木優空さん



「2泊3日の広島派遣」

荒川中学校3年 志村颯琉さん



「過去の過ちからの学び」

神林中学校3年 阿部謙明さん



「戦争の悲惨さ」

朝日中学校3年 鈴木琉翔さん



「広島で感じたこと」

山北中学校3年 木村奈々さん

僕は、広島で起きた悲劇を知り平和について考えるという目標を持って、参加しました。

平和記念資料館では、展示を見て、たくさん命などが失われたんだなと思う、胸がぐっと絞めつけられました。平和記念式典で印象に残ったのは、小学生による子ども代表の「平和への誓い」です。この言葉を聞いて、今自分が生きていること、ありがたさ、平和のために何ができるのかを考えさせられました。

僕はこれからもっと周りを思いやって、争いを少しでも減らしていきたいと思ってきました。

1日目に、千羽鶴の奉納と平和記念資料館で当時の被爆の事実を見学してきました。自分はその時代にはまだ生まれてはいませんが、凄く悲惨な出来事になり、悲しい気持ちになりました。

2日目に参加した平和記念式典で特に印象に残ったのは、子ども代表による「平和への誓い」です。小学生の2人がこまめに平和のことを考えているのか、自分も見習わなければいけないと思いました。

2学期に、この広島で学んできたことを全校で共有できる場を作り、更に考えを深めていきたいです。

今の日本を生きる私たちにとって戦争は「昔の出来事」になっただけではないか？私は、戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、それを多くの人に伝え広めることを目指して、被爆地である広島を訪れました。

平和記念資料館の見学や平和記念式典の参列などを通して、戦争を2度と起こさないためには、過去に犯した過ちから目をそらすずに、多くの人が平和について考えることが必要だと感じました。そのために、多くの人に学んだことを伝えられるようにしたいと思えます。

平和記念資料館を訪れた瞬間、その場所の重さと歴史の重要性を感じました。被爆の恐ろしさ、そこから立ち上がる人々の勇氣、特に、被爆者の手記や遺品が展示されている部屋では、当時の状況をリアルに感じる事ができました。

広島への訪問は、平和への思いを強める貴重な経験でした。戦争の悲劇と核兵器の危険性を広く知らせることが重要であり、私自身もその一翼を担う使命感を抱くようになりました。

今、僕たちが平和な暮らしができていくことに感謝の気持ちでいっぱいです。

平和記念資料館では、当時の状況を鮮明に伝える写真やぼろぼろになった服、焦げた三輪車、悲しいエピソードを伝える展示などがありました。

資料館に行った後に見る原爆ドームは、より核兵器の恐ろしさを感じさせ、広島町の並みは、戦後立て直してこまで来たんだと考えると、感慨深いものがありました。

私を含めたほとんどの人が「戦争を知らない世代」になってきているように、私が戦争についてもっと知るきっかけになれたらいいなと思います。

平和記念資料館では、当時の状況を鮮明に伝える写真やぼろぼろになった服、焦げた三輪車、悲しいエピソードを伝える展示などがありました。